Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2024-06-30

第8章 神戸大学附属図書館との連携

木村，修二
水本，有香

(Citation)
歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業,11(平成24年度事業報告書):50-50

(Issue Date)
2013-03-31

(Resource Type)
report part

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81005276

9. 地域歴史遺産と地域連携活動（市沢哲）

（文責・村井良介）

(6) 『地域歴史遺産活用ハンドブック　兵庫県版』の刊行

地域歴史遺産を活用するための、一般向けのハンドブックを製作した。2013 年 3 月刊行の予定である。

地域歴史遺産とは何かということから、史料整理の方法、地域の歴史の調べ方、地域歴史遺産をいかし活動の事例、水損史料の応急措置方法などをまとめた。文字を少なくし、読みやすいよう心懸けた。また、兵庫県下の自治体の変遷や、自治体史、史料所蔵機関の一覧などの資料を付録としてつけた。

地域歴史遺産の保存と活用とは一体である。また、その担い手として幅広く市民がかかわることが必要である。そうした点を鑑み、地域史料や、あるいはそれを所蔵する機関の利用を促すため、本ハンドブックを企画した。今後、まちづくり地域歴史遺産活用講座などで活用していきたい。

（文責・村井良介）

(7) 担当教員ミーティング

なお本事業遂行のため担当 3 教員のミーティングを、原則として毎週開いた（2012 年 4 月 9 日～ 2013 年 3 月 5 日まで計 30 回、3 年間合わせて 70 回）。（文責・坂江渉）

第8章　神戸大学附属図書館との連携

(1) 地域資料調査

2004 年 3 月以来人文学研究科地域連携センターによって進められてきた基礎的な調査の成果を承けて、附属図書館では 2009 年度より附属図書館各館室に所蔵する古文書等地域史料の詳細について、その全容を明らかにする調査を開始した。

本事業では、社会科学図書館蔵郷土文献資料を中心とする附属図書館所蔵文献資料の詳細な目録作成とそのデータベース化と共に、史料の保存・公開、さらにこれらを基礎に史料の電子化公開を目標に活動を進めている。

昨年度に引き続き、人文学研究科院生で日本中世史専攻の山本康司君に文書の整理に当たってもらってきた。本年度は 4 月より一年を通じて、社会科学図書館所蔵の文献資料群のうち「摂津国八部郡花熊村村上家文書」の整理および目録作成を進めてきた。大部な文書群であるため年度中の完了はみなかったが、文書群全体のおよそ８割程度整理を進めてきている。

なお今後も連携して、社会科学図書館所蔵の文献資料群を中心に整理作業を継続し、併せて公開も漸次進めていくことになっている。

（文責・木村修二）

(2) 震災資料の調査・活用

神戸大学は各部局による震災復興支援活動や災害科学研究を行うグループへの支援等の活動を行う「震災復興支援・災害科学研究推進室」を 2012 年 1 月に設置した。

本事業は、同室からのサポート経費に基づき、被災地において進められている「震災記録を図書館に」キャンペーンの実施に伴う各図書館による震災資料の収集・保存などの活動支援を含む災害資料学の実践的な研究を附属図書館震災文庫とともに行った。

2012 年 6 月 28 日に「震災文庫を学ぶ若手交流会」、7 月 2 日、2013 年 2 月 19 日に「阪神・淡路大震災資料の保存・活用に関する研究会」を開催し、東日本大震災被災地での災害資料の保全活動の現状と課題、阪神・淡路大震災での震災資料をめぐる活動の意義について議論し、学内外の関係者（神戸大学附属図書館、人と防災未来センター資料室等）が情報と問題意識の共有化を図った。

さらに情報発信として、IRP 事務局、内閣府、兵庫県、アジア防災センター（ADRC）、国連国際防災戦略事務局　（UNISDR）主催「国際復興フォーラム 2013 都市の力強い復興～防災を取り入れた復興・開発計画づくり　－東北と世界の経験を 2015 年以降の国際防災・復興枠組に生かす～」（2013 年 1 月 22 日、ポートピアホテル）の展示ブースへ出展した。

事業の総括として、2013 年 3 月 8 日、附属図書館震災文庫において第 2 回被災地図書館との情報交換会を開催し、被災地からは東北大学附属図書館、岩手大学附属図書館、宮城県図書館、岩手県立図書館等から参加を得て、阪神・淡路大震災の震災資料所蔵機関との意見交換を実施した。

（文責・水本有香）